

## 2 各府県市による実践報告

### ① 「『生徒指導の三機能チェックリスト』の活用について」

京都市教育委員会事務局 指導部 生徒指導課  
首席指導主事 水野 博之

#### ○チェックリストのねらい

平成31年4月、全市の小中、義務教育学校に『生徒指導の三機能チェックリストの活用』という冊子を配布。「生徒の自己指導能力を育てること」を生徒指導のねらいとする。自己指導能力については、生徒指導の三つの機能で児童生徒に能動的に関わることで①自己決定の場をあたえること、②自己存在感をあたえること、③共感的人間関係を育成することにより、問題行動・いじめ・不登校の予防につながると考える。

#### ○チェックリストの活用

活用の目的は、一人一人の児童生徒の自己指導能力を育成するため、教職員があらゆる教育活動の中で、生徒指導の三機能を発揮することが必要だと考える。教職員の意識を変え、日々の取り組みを改善していくことで生徒の変容につながり、自己指導能力が高まると考える。

チェックリストの種類は、小学校、義務教育学校（前期）用【授業場面】【生活場面】の2種類、中学校、義務教育学校（後期）用【授業場面】【生活場面】の2種類で、チェックリストの項目は、【授業場面】【生活場面】それぞれ三機能別に10項目ずつ計30項目、あわせて60項目ある。教員が「1」～「4」の4段階評価を行う。

#### ☆【授業場面】の三機能

- ・自己決定の場をあたえる・・・自分や自分たちで考えて決めて実行する場をあたえる。「自分」も「みんな」も喜ぶこと。
- ・自己存在感をあたえる・・・授業での居場所を作る。
- ・共感的人間関係を育成する・・・「人と人」という関係を作り出す。

#### ☆【生活場面】の三機能

- ・自己決定の場をあたえる・・・児童生徒が、より適切に自ら判断して責任ある行動をとれるようにする。
- ・自己存在感をあたえる・・・自分は価値のある存在であることを実感させる。
- ・共感的人間関係を育成する・・・認め合う場面を作り、互いに尊重し、共感的に理解し合う人間関係をつくる。

#### ○チェックリストについて

- ・年度当初に、全教職員で「生徒指導の三機能」を共通理解する。
- ・活用回数は年度当初や各学期末など各校の判断で定期的に活用。
- ・生徒指導主事が回収、「集計・分析ソフト」に入力、グラフ化。
- ・中学校ブロック、小中合同研修、小中連携に活用。
- ・実践研究指定として本年度、小学校18校、中学校6校、次年度は小中学校8校を予定。

